

山行報告書

作成:2011年6月26日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	八ヶ岳(赤岳,横岳,硫黄岳縦走周回)	目的[方法]	新人研修テント泊登山者と展望を楽しむ
期間	2011年6月18(土),19日(日)	形態	テント泊周回
参加人数	5人		

行動記録:

◇6/18(土) 各自PU(5:30,6:15)=0:10=豊田東IC(6:25)=0:50=恵那峡SA(7:15,7:25)=1:20=諏訪IC(8:45)=1:20=美濃戸登山口(10:05,10:45)-2:15=赤岳鉱泉(13:00)TS1,就寝(20:00)

◇6/19(日) 起床(3:30)TS(5:20)-0:30=行者小屋(5:50,6:05)-1:40=赤岳山頂(7:45,815)-0:25=赤岳展望荘上(8:40)-0:20=地蔵ノ頭(9:00)-0:45=大権現(9:45)-0:20=三叉峰(10:05)-0:15=横岳山頂(10:20)-0:40=硫黄岳山荘(11:00,11:40)-0:20=硫黄岳山頂(12:00)-1:15=赤岳鉱泉(13:15,13:45)-1:00=美濃戸登山口(14:45,14:55)=0:25=縄文の湯(15:20,16:05)=0:30=諏訪IC(16:35)=0:10=諏訪SA(16:45,16:55)=2:10=豊田東IC(19:05)=0:10=各自



美濃戸山荘駐
車 場 代 (1000
円/日)
赤岳鉱泉テント
張代(1000 円/
人)
縄文の湯日帰
り入浴代(400
円/人)

概念図:

日誌:一日目、時間通り豊田東 IC を出発した。恵那峡SAで買出しを済ませ、登山口へ向かった。美濃戸口は幅広い林道が続いていたので直線で通過してしまったが、高原ロッヂへ迷いこんでしまったので、美濃戸口まで戻る。美濃戸口には看板と登山道へ入っていく細い林道を発見し、美濃戸山荘駐車場へ向かった。美濃戸山荘駐車場は 60 台駐車可能で、準備を済ませ登山を開始した。赤岳鉱泉までは北沢沿いの経路で進んだ。登山道は、表示看板や木道、橋はきちんと整備されており、傾斜も緩やかで歩きやすかった。赤岳鉱泉のテント場へ到着し、テントを張った所で雨が降り出した。テント場にはテントが 10 基ほど設置されていた。そのまま雨が上がらなかったため周辺散策は行わず、食事を済ませ就寝した。赤岳鉱泉は 24 時間水が出ており、またトイレは暖房便座の洋式便器やトイレトーパーが設置されており、匂いもほとんどなく大変キレイだった。

二日目、朝食を済ませ、必要な装備品を持って赤岳鉱泉を出発した。行者小屋を経由し、文三郎入口から赤岳頂上を目指した。行者小屋のテント場にはテントが 20 期以上は設置されていた。赤岳頂上までは階段と急登が続き、樹林帯を抜けると、ガレ場と岩場が続いた。赤岳頂上からは赤岳頂上荘、赤岳展望荘、横岳、硫黄岳山荘、硫黄岳と縦走した。登山道は鎖場、はしご、階段、ケルンが、分岐には標識がしっかり整備されていたが、岩場に○や×といった印は少なかった。また、団体の登山者が多く、鎖場や道の狭い所では渋滞になってしまった。硫黄岳山荘のテラスで休憩を済ませたが、硫黄岳山荘のトイレも赤岳鉱泉同様にきれいなトイレが設置されていた。硫黄岳から赤岳鉱泉に戻り、テントを片付け下山した。縄文の湯でお風呂に入り、諏訪 SA で休憩し、岡崎へ戻った。

感想:終始山頂付近はガスがかかっており、眺めの良い景色は望めなかったが、時折ガスの中にうっすらと山の姿や登山者の姿が浮かび上がり、幻想的な景色が素敵だった。登山道も岩場、鎖場、はしご、ガレ場、階段、木道があり、バラエティーに富んでおり、歩いていて楽しかった。また、岡崎山岳会の山ガールの人気が際立っており、頂上で周辺登山者達から熱い視線を集めていた。縦走、テント泊で新人研修をしていただき、いろいろなことが学べました、ありがとうございます。今後とも指導よろしくお願い致します。

参加者名	CL・配車:市川、会計:近藤、食当:松永、太藤、記録:鈴木
------	-------------------------------